

平成 26 年度第二期第 1 回 (一社) 日本生物物理学会理事会議事録

日時 : 2014 年 6 月 28 日 (土) 14 : 00 ~ 17 : 00

場所 : キャンパスプラザ京都 2 階 第 3 会議室

出席者 : 理事総数 17 名 出席理事 12 名 (代表理事を含む。)

代表理事 (会長)	七田 芳則	理事 (副会長)	船津 高志
理事	伊東 大輔	理事	今元 泰
理事	金城 政孝	理事	佐甲 靖志
理事	須藤 雄気	理事	寺北 明久
理事	永井 健治	理事	根岸 瑠美
理事	林 久美子	理事	村上 緑

監事総数 2 名 出席監事 2 名

監事	片岡 幹雄
監事	難波 啓一

オブザーバー :

会誌編集委員長 原田 慶恵

BIOPHYSICS 編集委員長 石渡 信一

ホームページ編集委員長 由良 敬

平成 27・28 年度会長候補 中村 春木

陪席者 :

学会本部事務局 垣内 香里

議長 : 代表理事 (会長) 七田 芳則

議事録作成者 : 理事 伊東 大輔

理事 根岸 瑠美

報告および審議事項 :

報告事項 :

1. 平成 26 年度年会準備状況 (金城) : 報 1
2. 平成 27 年度年会準備状況 (紺野) : 報 2
3. 総会ワークショップ準備状況報告 (須藤) : 報 3
4. 出版委員会報告 (船津) : 報 4
5. 第 3 回 BIOPHYSICS 論文賞選考委員会報告 (七田) : 報 5
6. 男女共同参画・若手支援委員会報告 (須藤) : 報 6
7. 男女共同参画学協会連絡会報告 (須藤) : 報 7
8. 平成 27・28 年度会長候補者意向聴取選挙・代議員選挙結果報告 (七田) : 報 8
9. 日本学術会議生物物理学分科会報告 (難波) : 報 9
10. IUPAB・ABA 関連事項 (永井・金城) : 報 10

11. 賞・助成金推薦委員会報告（船津）：報 11
12. 支部報告（支部長代理）：報 12
13. Web システム WG 報告（由良）：資料なし

審議事項：

1. 平成 29 年（2017 年）年会開催地について（七田）：議 1
2. パンフレット及びクリアファイルの配布について（林・政池）：資料なし
3. 除籍時期の変更について（須藤・今元）：議 3
4. 事務体制について（七田）：資料なし
5. その他（七田）：

議事の経過の要領およびその結果：

理事会の審議に先立ち、会長より、定足数を満たしており、定款第六章第三十二条の規定により理事会が成立していることが報告された。会長が議長に就き、開会を宣言し審議に入った。

報告事項：

1. 平成 26 年度年会準備状況（金城）：報 1

金城理事から平成 26 年度札幌年会の準備状況についての報告があった。演題登録状況について、969 件の一般発表演題登録、149 件のシンポジウム登録と昨年を上回る登録があった。ランチョン・展示・広告については、ランチョンが 9.5 枠（10 の企業・団体）、展示が 29 枠、予稿集広告が 15.5 ページ、アプリバナー広告が 1 件となっている。アプリバナーは 5 件ほどを見込んでいたが、現時点では達していない。市民講演会について、9 月 28 日に開催を予定しており、難波啓一氏にご講演いただくことになっている。参加者には生物物理学会が監修のもと制作した「一家に一枚：動く！タンパク質」ポスターを提供予定である。

2. 平成 27 年度年会準備状況（紺野）：報 2

紺野年会実行委員長代理から平成 27 年度金沢年会準備状況について報告があった。会場について、講演会場およびその他の業務に充てる教室・会議室を確保し、その借用費用として最大として 200 万円が経費として必要となるとの事であった。会期中の臨時バス費用 130 万円と併せて最大 330 万円の費用が確定している。市民講演会は開催予定。近日中に年会実行委員会を開催する。

3. 総会ワークショップ準備状況報告（須藤）：報 3

須藤理事から札幌年会における総会ワークショップ準備状況について報告があった。石黒浩氏（大阪大学）、竹内昌治氏（東京大学）、永井健治理事の講演が予定されている。ポスターの原案も併せて提示された。

4. 出版委員会報告（船津）：報 4

船津出版委員長から出版委員会の報告について報告があった。まず、BIOPHYSICS に関す

る科研費（研究成果公開促進費）が採択された事が報告された。平成 26 年度のみであり、タイトルは「アジア・オセアニア地区を代表する欧文誌としての BIOPHYSICS 誌の活性化」である。次に、国立情報学研究所から、学協会誌電子化事業を終了するとの通知があった事が報告された。現在、生物物理の年会要旨集が収録されており、札幌年会、金沢年会の要旨集は収録される。それ以降は収録されないが、既存分は公開され続けるとの事であった。事業については、JST が引き受ける事が予定されており、将来的にはこちらに移行する可能性がある。

原田会誌編集委員長から会誌編集委員会の報告があった。記事は順調に集まっている。7 月 25 日に発行される次号から新しいロゴに変更になっている。平成 26 年発行分より表紙のデザインが変更になり、またロゴも変更された事から、表紙・裏表紙のデザインを確定したいとの提案があった。具体的には、プロのデザイナーに依頼したいと考えているとの事であった。デザインに関わる経費について支出してよいか審議し、理事会で承認を得た。札幌年会の予稿集のデザインは、今年度は印刷が間に合わないため、昨年までと同様のデザインで印刷される。次に、委員会の web 打ち合わせのシステム変更について提案があった。Web 打ち合わせの際、これまでセキュリティ面等を考慮しサイボウズ社のソフトウェアを使用していたが、費用が年間 10 万円かかっていた。同じサイボウズ社のサイボウズライトというソフトウェアが無償で使用できる上、セキュリティ等の問題もないため、来年度以降はこちらに変更する。

石渡 BIOPHYSICS 編集委員長から BIOPHYSICS 編集委員会の報告があった。新しいロゴマークについては欧文誌も早急に対応する。BIOPHYSICS の現状について、本年は 4 編が受理されたが、うち 1 編については論文不備のため修正依頼し差し戻し中である事が報告された。BIOPHYSICS の論文投稿システム (ScholarOne Manuscript) について、その使い勝手を改善中である。また、BIOPHYSICS 誌の投稿規定を改訂した事が報告された。加えて、Conflicts of Interest、Ethics Standard、Author Contribution の項目を追記した。続いて、報 5 にも関連するが、第 3 回 BIOPHYSICS 論文賞の審査を行い、受賞論文は「Kinjo et al., BIOPHYSICS, Vol. 3 pp. 75-84 (2007)」に決定したことが報告された。平成 25 年に推薦された論文を含む計 12 件の推薦について審査を行った。審査方法を変更し、今回は引用論文数を点数化せず審査段階で提示し、参考にしながら採点するようにした。審査の結果、標記論文を今回の受賞論文とすることとなった。さらに、第 1 回 BIOPHYSICS Editors' Choice Award の審査結果について報告があった。前年に BIOPHYSICS 誌に掲載された論文（依頼論文は原則対象外）のうち生物物理学に寄与すると評価された論文に対して、編集委員会から「BIOPHYSICS Editors' Choice Award」を授与することが決定された。推薦は担当エディターが採択決定時に行う。募集を行ったところ、2 編の論文（「Murata et al., BIOPHYSICS, Vol. 9, pp. 13-20 (2013)」および「Furutani et al., BIOPHYSICS, Vol. 9, pp. 123-129 (2013)」）が候補として挙がり、BIOPHYSICS 編集委員の過半数から可とする回答が得られたため、これらの論文を第 1 回 Editors' Choice Award 受賞論文とした。受賞者には、賞状と記念品を札幌年会時の懇親会にて授与する。

HP 編集委員会からは今回は特に報告事項はないとの事であった。

船津出版委員長から、学術著作権協会の説明会参加および電子著作物の使用料について報告があった。著作物の電子的な利用・複製に関して、学術著作権協会への委託を希望し、適正な使用料を設定した。協会に FAX 送信済であり、これから契約を結ぶということであ

った。続いて、広告募集案内の改訂について報告があった。まず永井理事から、IUPAB タスクフォースの Application of Biophysics について、日本がイニシアチブをとっていく方針で進めており、第 1 回の原稿は永井理事が既に提出し、今後他の記事もどんどんアップロードしていく予定あるとの説明があった。この英文記事を生物物理学会の英語版 HP に置き、IUPAB の HP とリンクさせる。著作権は生物物理学会が所有する予定になっている。これに連動して、日本語版を作成し広告料を取ってはどうかという提案があった。希望によって日本語原稿を作ってもらえれば日本語 HP や会誌にも載せるという案で合意に達した。英語原稿だけでも 8 万円を課す。企業 PR ページとの違いは、1 ページ目には研究者が原稿を執筆し、残りの 1 ページを企業が執筆する点、および掲載期間が限定されない点である（企業 PR ページは 1 年間）。企業 PR ページと新技術紹介ページの価格が同じ 8 万円というのは不公平ではないかという意見があり、出版委員会で再度審議することになった。

5. 第 3 回 BIOPHYSICS 論文賞選考委員会報告（七田）：報 5

七田論文賞選考委員長から、第 3 回 BIOPHYSICS 論文賞選考委員会報告について、報 4 で石渡 BIOPHYSICS 編集委員長から報告があった通りであるとの発言があった。

6. 男女共同参画・若手支援委員会報告（須藤）：報 6

有坂男女共同参画・若手支援委員長の代理として須藤理事から、男女共同参画・若手支援委員会の報告があった。まず、札幌年會会期中の男女共同参画シンポジウム準備状況について報告があった。今回は名古屋大学の坂内氏に講演いただいた後、グループディスカッションを行う事を予定している。グループディスカッションが活発になるよう、各テーブルにファシリテーターを設定する。続いて若手奨励賞関連について報告があった。今回応募者が 32 名と今までで最も少ない応募者数であった。周囲の若手研究者に積極的に応募するよう呼びかけて欲しいとの事であった。これまでの受賞者が非常に優秀であるため、申請をためらっている若手研究者が多い事が予想されるので、審査をされる事だけでもメリットがある事を積極的に伝える事も重要であるとの意見もあった。演題登録は例年 1 週間延長されるが、若手賞の申請は延長されない事も要因の一つである可能性もあるという意見も挙げた。応募者を増加させるための施策を今後も検討する事となった。

7. 男女共同参画学協会連絡会報告（須藤）：報 7

有坂男女共同参画・若手支援委員長の代理として須藤理事から、6 月 24 日に開催された男女共同参画学協会連絡会運営委員会に佐甲理事が出席した事が報告された。佐甲理事より簡単に報告があり、要望書について応物学会以外の正式加盟学協会の賛成が得られた件、女子中高生夏の学校 2014 の TA が不足している件、応物学会がオブザーバーになった件、13 期委員長として植物生理学会の西村いくこ氏が承認された件、(社) ジャパン・ダイバーシティへの加入は審議を継続する件等が報告された。

8. 平成 27・28 年度会長候補者意向聴取選挙・代議員選挙結果報告（七田）：報 8

高田選挙管理委員長に代わり、七田会長から平成 27・28 年度会長候補者意向聴取選挙および代議員選挙結果の報告があった。まず会長候補者意向聴取選挙結果について、開票の結果、中村春木氏が選出された事が報告された。このため、中村春木氏を理事会のオブザ

ーバーに加わっていただく事が提案され、承認された。続いて代議員選挙結果について報告があった。最多得票数は 67 票であり、最小有票数は 24 票であった。最小有票数が同点であったため、内規により 5 名から抽選で 2 名を選び、計 55 名を代議員（社員）として選出した。新たに選出された代議員の中から、次期理事が選出される事になる。この選挙は現代議員によって行われる。次期理事を辞退する事が可能か否かについて質問があったが、現時点ではそのような内規を定めておらず、辞退は不可能との事であった。この件については将来の検討課題とする事となった。また、一般会員向けの選挙結果報告について、会誌掲載用原稿案が提示され、理事会で確認・承認した。

9. 日本学術会議生物物理学分科会報告（難波）：報 9

難波氏から、8 月 29 日に日本学術会議講堂にて日本学術会議フォーラム「生命情報ビッグデータ時代における新しい生命科学」が開催されるため、積極的に参加して欲しいとの事であった。

10. IUPAB・ABA 関連事項（永井・金城）：報 10

永井・金城外交・国際交流担当理事から IUPAB 関連の報告があった。まず第 18 回 IUPAB 国際大会@ブリスベンについての状況報告があった。野地氏から日本人スピーカーを 14 名推薦したが、ほとんど反映されなかった。永山氏から IUPAB へ問い合わせしていただく。次に、IUPAB タスクフォースについて報告があった。報 4 でも報告があった通り、生物物理学学会 HP の「新技術紹介ページ」を IUPAB の Application of Biophysics にリンクする、著作権は日本生物物理学学会のものとする事が IUPAB 理事会で承認された。先に進むに当たり、MoU（覚え書き）を IUPAB と日本生物物理学学会との間で結ぶ必要があるが、永山氏から 6 つのプロポーザルを提出した。続いて、第 20 回 IUPAB 国際大会日本誘致活動について報告があった。4 月 5 日の理事会では、2023 年の誘致を目指して準備を進めることになった。5 月 2 日にワーキンググループ会議を開催し、1 回のエントリーで採択される可能性は低い。ため、2020 年もエントリーしても良いのでは、という点、および JNTO（日本政府観光局）の支援を当てにできることから、2020 年にエントリーする事となった。2020 年に IUPAB を日本に誘致する理由として、1 点目に BSJ の国際的プレゼンスの再確立が挙げられる。2 点目は BSJ を中心とした国際研究ネットワーク形成（特に若手への機会提供）、3 点目は BSJ の会員増加、BSJ の更なる国際化、その他として BIOPHYSICS 投稿促進（海外からの投稿増加）が期待できる。2020 年に立候補するもう一つの理由として、北京大会における 2017 年 IUPAB 開催立候補地の活動に関する報告に、下馬評では評価の高かったリオデジャネイロ、イスタンブールを破り、サイエンスの強さやノーベル賞を多数受賞していることを主張したエジンバラが誘致に成功したという事例があるためである。日本のサイエンスのレベルも高いため、十分アピールできるのではないかと、という結論に至った。開催地について協議した結果、沖縄で開催することを目指す事が決定した。その理由として、過去に沖縄コンベンションセンターにて EABS を開催しているため、会議施設費用の 70%は discount されることになっている（会場費 600 万程度）。その他、世界遺産「首里城」を始めとした独自の文化を有している点、世界有数の魅力的な自然、魅力的な科学施設（OIST ツアーが可能）がある事も挙げられる。なにをやるかについては、まず「自分たちがやりたい祭り」で企画する。Concept として、林理事から「生物物理の万国博覧会」のようにしてはどうかとい

う提案があり、この方向で考えていることの事であった。アピール点としては、BSJ の Science の質の高さ、BSJ の文化を背景にした独自の会議コンセプト、沖縄という立地の特徴、の3点がある。IUPAB2014 プリスベン大会での誘致活動として、Japan Night を開催する。Japan Night にて、上記のアピール3ポイントを各担当でスピーチする。最後に IUPAB 総会でのアピールを難波氏に願う。昨年開催された分子生物学会をヒントに、祭りのような学会ができれば良いのではという事であった。林理事から上記の件について補足説明があり、どのようにしたら日本らしさが出るか、行きたいと思える国際シンポジウムにできるかと考え、アメリカ生物物理学会と違う事が重要であるという事であった。そこでまずシンポジウム 100 という企画を提案した。

11. 賞・助成金推薦委員会報告（船津）：報 11

船津賞・助成金推薦委員長から、光生物学協会紹介講演・奨励賞候補者の推薦結果の報告があった。

12. 支部報告（支部長代理）：報 12

七田会長から、九州支部長に代わって九州支部活動ならびに会計報告があった。九州支部例会として、日本生物物理学会九州支部・熊本大学イメージングセミナーを4月25日に熊本大学で開催し、116名が参加した。

13. Web システム WG 報告（由良）：資料なし

由良 Web システムワーキンググループ長から報告があった。ワーキンググループが発足し、5月2日に会合を行い、現在情報収集中であることが報告された。

議題：

1. 平成 29 年（2017 年）年会開催地について（七田）：議 1

七田会長から平成 29 年（2017 年）年会開催地についての議題が説明された。6月17日締め切りで、理事を対象に平成 29 年の年会開催地アンケートを実施した。中国・四国・九州が多くなっており、特に九州という意見が多かった。従って、九州地区で開催する事を決定した。議論の結果、まず山懸ゆり子氏に打診する事になった。

2. パンフレット及びクリアファイルの配布について（林・政池）：資料なし

林啓蒙担当理事から、学会グッズの提供について説明があった。学会グッズ（パンフレット、クリアファイル）の存在は Web で宣伝することになった。HP 編集委員会に連絡し項目を作成していただくことになった。パンフレット・クリアファイルの配布について、パンフレットは無償で配布すべきだが、クリアファイルに関しては公費払いが可能であれば原価程度が回収しても良いのでは、という提案があり、販売するとなると収益事業に該当する事になるため確認することになった。今後クリアファイルの作成を啓蒙担当理事が行うのは負担が大きくなるため、学会ロゴを募集した際に最終選考に残った方やデザインが好きな方に依頼をしてみる事が提案された。今のデザインのもので良いのでは、という意見も出たが、デザイン等はどんどん新しくして行った方が良いという事になり、パンフレットも古くなっており、こちらも新しくしたほうが良いのではという意見も出た。

3. 除籍時期の変更について（須藤・今元）：議 3

須藤・今元庶務担当理事から、法人化に伴い事業年度を変更したため、会費請求時期と除籍実施時期を変更することについて提案があった。1月に会費請求を行い、4月末の入金状況により5月頭に除籍としたいとの提案であった。特に意見もなく、変更について承認を得た。

4. 事務体制について（七田）：資料なし

七田会長より、BIOPHYSICS 科研費採択の使途について提案があった。BIOPHYSICS 関連業務担当事務員を雇用し、事務局にて補助業務を行う事が提案され、理事会で承認を得た。

5. その他（七田）：

・名誉会員、監事について

七田会長より、名誉会員について提案があった。今年は名誉会員の推薦は行わない予定である。理事から推薦する方がいるか確認した結果、本年度は名誉会員の推薦は行わないことを決定した。続いて、監事の選出方法および時期について説明があり、法人化以降は、次期監事候補を理事が選任される6月の総会までに決定することが確認されたため、引き続き適任者を検討する事となった。

・フォトンファクトリーにおける放射光実験ビームタイムの確保に関する要望書について：議 6

フォトンファクトリー・ユーザーズアソシエーション(PF-UA)からの要望書について、審議の結果賛同することが承認された。

連絡事項：

1. 次回理事会日程について（七田）

第2回理事会	9月25日（木）	12:20～13:20	札幌コンベンションセンター1階	諸会議室
臨時社員総会	9月25日（木）	18:40～19:40	札幌コンベンションセンター1階	諸会議室
第3回理事会	9月27日（土）	12:30～13:30	札幌コンベンションセンター1階	諸会議室

その他の発議を求めたところ、格別なしと認められたので、議長は17:30に閉会を宣言して散会した。

上記の議決を明確にするため、定款第六章第三十三条の規定によりこの議事録を作成し、代表理事及び監事が次に記名押印する。

平成26年10月7日

一般社団法人	日本生物物理学会	平成26年度第一期第2回理事会
代表理事	七田芳則	(印)
監事	片岡幹雄	(印)
監事	難波啓一	(印)